

2024.2.29 (木)
第31回例会
(通算3746回)

2023-2024 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る ロータリーの輪を広げましょう」

第85代会長 後藤 公貴
副会長 樋口 貴広
幹事 佐藤 貴之
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2023-2024 年度
国際ロータリーテーマ



世界に希望を生み出そう
2023-2024 年度
RI会長 ゴードン R. マッキナリー
第2500地区ガバナー
鶴見 誠一郎 (紋別港 RC)

月間テーマ	平和と紛争予防／紛争解決月間
本日のプログラム	講師例会「MOO コミュニティスペースについて」(プログラム委員会)
次週例会	「嵯峨記念奨学生卒業報告会」(嵯峨記念育英会委員会)

- ロータリーソング：四つのテスト
- ソングリーダー：岩田 信一君
- 会員数 103名
- ビジター
- ゲスト コミュニティスペースBANYA 四宮 琴絵様

会長の時間 後藤 公貴会長



皆さま、こんにちは。先週のご挨拶を聞いていただいた方もいると思いますが、いよいよネタがなくなって、前日の出来事を話すまで追い詰められておりますが、本日も頑張って会長の時間を過ごさせていただきたいと思っております。

先日の幹事報告の中で、「『ロータリーの友』2月号に地域の魅力発見・釧路湿原ツアー、釧路ロータリークラブの活動が紹介されていますよ」と告知をさせていただきました。こちらは、昨年10月21～22日に、地区の補助金を活用して地元の小学生を対象とした地域の魅力を学び・考える体験ツアーを行いました、という内容になっています。もし、「初めて聞いたぞ」という方がおりましたら、『ロータリーの友』2月号をご覧くださいと思います。

実は、この記事を読んだ富山西ロータリークラブの会長エレクト・山本肇さんからお手紙をいただきました。それを少しだけご紹介させていただきます。

私は、富山西ロータリークラブ会長エレクトの山本肇と申します。先般、ロータリーの友2月号に掲載されました「地域の魅力発見・釧路湿原ツアー」の記事を拝読いたしました。弊クラブも過去2年間、地区補

助金を活用し、北アルプスの立山における外来種駆除事業を実施しております。この取り組みは、小学5・6年生のひとり親家庭を対象に、立山固有種の保護とその重要性を理解し体験してもらうことを目的としています。

こちらは、ロータリーの友2023年11月号に掲載されているとのことですので、ロータリーの友のアーカイブをご覧くださいと思います。アーカイブの見方が分からない方は、昨日、佐藤幹事が調べておりますので聞いていただければと思います。

この事業が3年目を迎えるにあたり、更なる発展を目指しており、貴クラブの取り組みから学び、参考にさせていただきたいと考えております。

以下は、こちらに訪れたいという内容です。それで、打ち合わせをさせていただいて、8月15日から18日まで会長エレクト・山本肇さん、その時には会長になられている方がこちらに来られて、全てではないですが一緒にこのツアーを体験しながら、となっております。

全道で、全国で、私たちと同じように地域の課題を解決し、地域の自然や自然環境を守ろうと考えている方が非常に多くいることに少し驚いています。私たちは、どちらかという、少しいいことをしていても、奥ゆかしさで「まあまあ、われわれの胸の中にとどめようよ」というきらいがある気がします。発信していくことが重要なことと思っておりますし、外部の情報をしっかり

と受け止めて、それを共有して、われわれの中で咀嚼して、いい事業に還元して行く、今ある事業にブラッシュアップをして行く考え方も非常に重要なのだと改めて感じさせていただきました。

私は、今年度のテーマに掲げているとおり「地域を愛し、未来を語る」であります。私は今年、54歳になる責任世代、地域をなんとか良くして行きたい、地域の経済とか地域の環境、子どもたちの未来をなんとか良くして行きたいというところで、何ができるか、その気付きをこの例会とかロータリークラブの事業から感じ取っていただければ幸いと思ひまして、本日、この話をさせていただきました。

そして、本日は、四宮様を講師にお迎えをして、MOOの『コミュニティスペースBANYA』についてご説明ご教授をいただきます。そして、皆さまの席に『御社にそのシステムは不要です。』という書籍があると思いますが、四宮様の旦那様が上梓（じょうし）された書籍です。本日は皆さまにプレゼントということですので。本当にありがとうございます。しっかり読んで、これも学ばせていただきたいと思ひます。

われわれは年をとると、外部とか情報に目が行かなくなってきましたので、今日は新たな発見、また新たな学びを皆さんと一緒にしてまいりたい、そういう時間にさせていただきます。

本日もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

幹事報告 佐藤 貴之幹事

皆さま、こんにちは。日本ロータリーから「囲碁同好会のご連絡」が来ております。こちらは、第22回RI台湾囲碁大会のご案内となっております。5月18～19日(土日)に開催されます。こちらの大会は、日本・韓国・台湾・ハワイで順に開催地を回って、今回が台湾で開催となっているようです。基本は現地集合・現地解散のようですが、ご希望がありましたらミニ団体旅行などを企画しております。ということでですので囲碁にご興味ある方おりましたら私までご連絡をお願いします。

■本日のプログラム■

「MOOコミュニティスペースについて」

プログラム委員会委員長 八幡 好洋君

プログラム委員会の八幡です。

本日は四宮琴絵様にお越しいただきまして、MOOにありますコミュニティス



ペースの『BANYA』の取り組みについてご紹介をいただきます。

四宮さんは釧路出身ですが、現在は東京でご主人と一緒にIT系の企業を経営されている傍ら、釧路と東京を往復しながら様々な釧路の活動に関与されております。

今日はその中のひとつ、『BANYA』の取り組みを中心にご紹介いただきたいと思います。

それでは、四宮様、よろしくお願ひいたします。

講話 四宮 琴絵様

お時間をいただきまして私から、MOOの活用、ネオ公民館、港まちベース946BANYA(くしろばんや)コミュニティスペースについてお話させていただきます。



本日は、このような会にお招きいただきましてありがとうございます。

皆さま、MOOの2階に元々、『花ばんや』という居酒屋があったことを覚えていらっしゃるでしょうか。今はコミュニティスペースとして『港まちベース946BANYA』という名前でやっております。こちらは、だいぶ長い時間、空き店舗となっております。かなり広いスペースなのですが、ずーっと活用はされておりました。私が、ここに人が集まる場所を作りたいと公社さんに提案させていただいて、2年前の9月からプレオープンさせてもらって、去年の4月にグランドオープンをして、いま運営させてもらっております。

本当に広いので皆さん、一度ぜひ遊びに来ていただきたいと思うのです。「まだ見ぬ自分に会いにいこう」をコンセプトに、様々な人たちが交差するような場所として「ネオ公民館」と名乗っております。

まず、私の自己紹介を少しさせていただきます。私は、「Hokkaido Design Code」という会社の代表社員になっております。もうひとつ、皆さまのお手元に無理やり置いた本、「株式会社ジョイゾー」という会社を夫と経営しております、その取締役副社長をやらせていただいております。

私は釧路市の北陽高校が出身でして、東堂君は同級生になっております。他にも「ラポールくしろ」の理事をやっております。ラポールくしろは三ツ輪さんの1階に『デジラポ』がオープンしております。子どもの第三の居場所というのを日本財団さんの支援を受けながらやっております。こちらも支援企業さんの募集を行っておりますのでよろしくお願ひします。

あとは、釧路市のDXアドバイザーということで3

期、今年で4年目になりますけれども、市役所内外でDXを推進することをやらせていただいております。

私の背景になっております「株式会社ジョイゾー」についてお話させていただきます。「サイボーズ」という会社をご存知でしょうか。ここの『kintone(キントーン)』を使って、皆さまの会社の業務システムを開発するSler(エスアイヤー)をやっております。システムインテグレーターですね。システムを開発しているのですが、キントーンだけにビジネス特化した



開発をしているものになります。創業は2010年で、現在29名おります。東京の江東区にありまして、写真は小さくて恐縮ですが、社内

にコミュニティスペースを持っておりまして、月1回、スナック「ジョイゾー」をやっています。誰でも来られますので、東京にいらっしゃった際には遊びに来ていただければと思います。

今日の本題は「Hokkaido Design Code」という会社になります。2017年に女性3人で起業しました。これは釧路の中で起業させていただいております。役員は、赤間有美子さんと古地優菜さんですが、3人とも複業になっております。ジョイゾーを持っている私もそうですけれど、赤間さんは「jimico」というパン屋さんを芦野でやっております。古地さんは転勤族の妻ということで現在は長崎に住んでおります。3人で複業をしながらでも釧路になにか貢献できることはないかということで会社を立ち上げました。

やっていることは主に、イベント企画や運営、地域のPR。古地さんはライターでもあるのでWeb記事のライティングなどもさせていただいております。

本日はこのような形でお話させていただきたいと思っております。5つ持って来ました。住んでおります東京視点と地元目線。次に、私がいつも「釧路を『推し活』している」と言っているのですが、どうして大好きな釧路を推し活しているのか。そして『港まちベース946BANYA』の活用、ITが素地にありますので、いま取り組んでいる人材育成と地域のDXのお話をさせていただこうと思っております。そして最後に、共創するネオ公民館の未来、と進めて行きますので皆さまの時間をいただきたいと思います。

では、東京視点と地元目線ということで話します。私は釧路という地方であることの優位性が高いと感じています。IT企業をやっていますけれども、東京でいろんなことにチャレンジしても、たくさんある中の1つになります。一方で、これは毎日新聞に取り上げてもらった記事です。時事通信社さんが釧路に行ったり来たりして釧路で活動している私のことを取材して

くださいました。時事通信社さんは記事を買っている会社さんなので、この記事を出したところ毎日新聞と地方紙に取り上げてもらえました。これは、釧路に特化して活動していたからこそ、取り上げてもらえたと思っています。先ほどは会長も「発信が大事だ」と話されましたけど、メディアを活用する時に地方の優位性は高いと感じています。

逆に地元目線でいくと、釧路の最大の魅力は「人」だと思っています。私は2拠点で活動していますが、釧路の方たちは、外から来た人をすごく受け入れてくれる。そして、地元のことをどんどん教えてくれるところがすごくいいなと思います。

ここに『Z世代』と言われる人たちの価値観を書いています。若い人は、自分の経験となるものにお金を出す傾向があります。私も釧路でイベント企画していますが、20代、30代はこの地域に来て、地元の人たちと何かをする、特別ではなくてもスナックで一緒にお酒を飲むとか、ワカサギ釣りをするとか、こういう交点にもすごく価値を感じて何度も足を運んでくれることがあります。

これもやはり、人がいてアテンドしてくれる人がいて、そこに何度も会いに行きたいと感じることがある。このように地元の人たちを見た時に「やっぱり、人がいいのだ」と思い、私の中では、釧路と東京をつなぐときに「人、これが最大の魅力ですよ」といつも言っております。

次に私が釧路の推し活をする理由。『推し活』という言葉ですけど、若い人たちが好きなアイドルなどを「推し活をする」と最近すごく言うのです。われわれの会社にも新卒採用をしてから若手が結構いるので、ジャニオタだったり、韓国系POPアイドル好きだったりがあります。この推し活という言葉聞いてピンと来たのが、私は釧路が大好きで釧路のことを「推し活をしている」んだなと思いました。

この推し活をする理由は、マイナーこそ特別なメリットがあるからでもあります。少しネガティブなマイナーという言葉ですが、そうではなくて、「知る人ぞ、知る」という、まだ誰も知らない、自分だけ考える場所、がこの道東エリアだと思っております。北海道の中でも札幌から離れているからこそその高付加価値なエリアだと認識しています。釧路に一度来てもらえば、何度でも足を運んでくれる人たちがたくさんいるのです。私も小さな会社を東京で経営しておりますけれど、同世代の経営者、少し上の経営者たちも一度連れて来ると、他の人たちを連れて何回も足を運んで、また長期滞在してくれるようなことが起きています。

メリットとしては観光資源の豊富さがあります。地元に住んでいると、「そんなに、特にないよ」と言ってしまうのですが、湿原の中を歩くだけでも良くて、観光資源がとてもあると思っています。それから国立公

園で保護されている自然、「札幌エリアとちょっと景色が違うね」と言われるのは、原生林がこの道東には多く、「この景色を目から見て、ただ道路を走っているだけでも、すごくいいよね」と言われます。こういうところがメリットだなと思っています。

一方で、整備された都市機能についても、釧路のメリットと感じています。どういうことかという、自然に触れて遊んで、田舎暮らしをすることに憧れて来る方が多いと思います。ただ長く生活したり長く滞在した時に、病院があったり、買い物する所があったり、飲みに出る場所があったり、ちょっと行けば自然があり、ちょっと帰れば都会がある、この都市機能があることもちょうどよい位置にいます。

そして、この極寒の2月ですが、私がイベントするのは極寒にやると決めております。来ると、ここでできない体験「極寒だけど、ずっと晴れているね」など極寒で空気のきれいさが分かって、20分も30分も外にいるわけでもないで「ワーッ、寒い！」という体験や、多分釧路の人はわざわざ行かないでしょうが、朝6時出発するカヌーを狙って湿原の中に行かれます。このようなどこにもない特別な体験ができるのが釧路湿原です。ここが国立公園の中に入っていて、いろいろな合わせ技で「釧路ってすごくいい所」なのです。紹介しきれないくらい道東の魅力がいっぱいあります。「一回だけでは語れないので何回でも来てください」という推し活をさせてもらっています。

ここからは『港まちベース 946BANYA』をいよいよ皆さんにご紹介したいと思います。

港まちベース 946BANYAの活用です。その前に、私は、元々釧路のことは好きですが、東京に出て行ったのは21歳の時です。高校を卒業して釧路製作所に3年勤めてから東京に行きました。今年が48歳になりますので東京のほうが長くなってきたのですが、2006年に里帰り出産をして、釧路に改めて帰って来るようになって、やっぱり釧路が好きだなと思い始めたのがスタートです。2014年までは専業主婦をしていましたので東京にいても働いてはいませんでした。子どもが3人いて、子育てがある程度終わって、ジョイゾーの事業が少し大きくなってきたところで、私が元々システムエンジニアでしたので社会復帰するとなりました。

そこでサイボウズと出会います。サイボウズが地方創成事業をやっていて、これが地域クラウド交流会（ちいクラ）というものになります。ちいクラはオーガナイザーを立てて、いろいろな地域にオーガナイザーを置いて、その地域で「起業をしたい」とか「起業したばかり」の人たちのプレゼンピッチをするようなイベントになっています。

このイベントは2016年に釧路で開催させていただきました。釧路信組さんにご支援いただいて、今もやら

せてもらっているのですけれど、2016年の時には「地域クラウド交流会とは何をやっているの？」という感じでしたが、そこから続けて2020年のコロナの直前2月まで10回ほどやらせてもらいました。ここで知り合った様々な人たち、企業といっても小さなカフェなどもありますし、会社を設立された方もいらっしゃいますが、本当に釧路にこんなたくさんの「何かをやりたい」と思っている人たちがいることに私は気付きました。

コロナになって、人が集まることができなくなってきたので、2年ほど行っていないんですけど、

946BANYAの場所を借りられたことが再開するきっかけになりました。これが



2022年12月、コロナが収束しそうというタイミングでしたが946BANYAでやらせていただきました。5名の方にプレゼンをしていただいて、交流時間もありますので皆さんには交流をしていただきました。ホントに前向きで釧路の街を好きだと思っている人たちが100人程集まっています。私の定期的に行って来たイベントは全部の回がほしい100人以上集まる会になっておりますので、「釧路って、いい街だよ」と自信を持って言えるの実績が、私の釧路の推し活にもつながっております。

この場所を持った時に、キックオフ・イベントとして行わせてもらったのが、「コミュニティリーダーズサミット」というものです。これのスタートは高知県でやっています。CLSと呼ぶのですがCLS高知というのがあります。地域内外のコミュニティをやっている人たち、私はどちらかというとIT系でして、ITはコミュニティが盛んです。いろんな勉強会をしたり、大きなイベントをやっていたりします。こういうところに参加している方とか経営者が集まって来て、トークセッションをしたり、ワークショップをしたりするイベントを高知でやっていた所に、私も地域クラウド交流会をやっていたことによって登壇の機会をいただき行きました。

これは高知で開催ですが、高知以外からもたくさん来ます。高知は「朝まで飲む」、これを「やりきる」と言うのですけれど、朝まで飲んで前夜祭からずーっとアテンドしてくれる地元の方を見て、釧路でも出来そう！と思ってキックオフ・イベントをやらせてもらったのがきっかけです。

先日、2月3日にCLS道東極寒編を行わせていただきました。この時はコープさっぽろさん協賛いただきました。コープさっぽろYouTubeでこのコミュニティリーダーズサミットの雰囲気、参加者のインタビュー

などを収録し、「CLS 道東」の映像を流していただいています。もし、ご興味があれば、どんなイベントかなど見ていただければと思います。こういう地域内外から人を呼ぶイベントを主催してやらせてもらっています。

先ほどのちいクラも全国でやっていると言ったのですが、去年は7か所からオーガナイザーとプレゼンターに来ていただいて、国際交流センターを全部貸し切り、全国大会をやりました。サイボウズの青野慶久社長も来て基調講演をいただいたほかにも、蝦名市長や釧路出身の漫画家・最上うみみさん、私もモデレーターとして参加してトークセッションもさせてもらいました。サイボウズという会社がIT企業なのになぜ地方創成をやっているのか、といいますが、サイボウズの青野社長も今治市出身です。「FC今治」を聞いたことあると思いますが、そこがスタジアムを造るときにも地元応援ということで個人的に寄付されるくらい地域に想いを持っている方でもあります。青野さんを1回呼ぶと100万円と言われているのですが、今回はちいクラグランプリ大会だということできてくれました。「釧路には前から行きたいと思っていた」とご家族でできていただいて、3日間くらい滞在して下さいました。

外から人を呼ぶイベントをやって行く時の工夫として私がやっているのは、ワーケーションの誘致です。本編のイベント当日だけではなく、その前から入ってもらいます。道東エリアで連携しておりまして、今回の2月は女満別空港から入り、北見でカーリングをして焼肉を食べてもらって、弟子屈に泊まって、そこから釧路に来てもらうことをしました。イベントの前夜祭は釧路の街で企画をして、街にお金を落としてもらうことを行いました。そして、本編があり、懇親会があり、また二次会以降では高知にならって「やりきる」を皆さんにやってもらっています。

次の日も道東エリアを紹介したいのでバスツアーを出しています。私たちはツアーで声掛けができないので、皆さんに「現地集合して、現地で決済をしてもらいます。バスを手配してありますよ」というだけのものにしてはいるのですが、このように道東の魅力を堪能してもらっています。

これが、その様子です。皆さん硫黄山に行ったことがなく、ここに行くだけでも「こんな所があったの」と言われました。札幌出身の人にすら「これは知りませんでした」と言われて、まだまだ知られていないのかと感じました。皆さんが釧路に来て、楽しんでくださっています。この中にあるパルコの役員の方は何回もいらしているのです。知らないうちに釧路のことが好きになってくれている人がいて、こういう人が来ているのであれば、釧路の経営者の皆さんにとっても、人のつながりから商売になる信頼のつながりができて行く

のではないかと私は感じております。

このように自分たちの自主イベントの他に、市民の方たちが946BANYAを使っているんなことに活用してくれています。「MOOにこんなに人が来るのか」と思った大きいところでは、1日に1000人ほど来たイベント『子育てフェス』です。946BANYAは「おさがり会」の会場になって、このように行列ができました。変わったのでは、左下の写真は、消防の皆さんが「座学を受けた後に、ここでトレーニングをする」と、マットと機材を持ち込んでまわっていました。あんずの種の須藤先生もイベントをやってくださいました。色々な方が様々な企画を持ち込んで下さっています。音楽のイベント、勉強会など、これがネオ公民館の役割だと私は確信しております。何かをこちらから仕掛けるだけではなく、みんながこの場を見たら「あっ、こんなことをやってみたいな」と思って来る、この街に楽しいことがそれぞれの人の発想で開催されていることなど、946BANYAをやって良かったと思っています。当初の予想は、自分たちが主催したイベントに大きく人が来ることで考えておりましたので、来場者の1年間の予想は5,800から6,000人が来ればと考えていたのですが、2月のCLS道東イベント時に1万人を超えて、現在、1万3,000人が来場しています。

MOO自体が「閑散としている」と言われていたのですが、既に1年間に1万人以上の方が来ていることは、ハードウェアだけでなくソフトウェアのコンテンツがしっかりしていれば人が来るということの実証になったのではないかと考えています。

では、946BANNYAはどのようにして維持しているのかです。あの場所の委託管理を受けているのではなく、家賃を支払いながらお借りして運営をしております。イベント時のイベント会場費などで賄っております。メンバーシップというものもあります。月額で、サブスクでお金をいただきます。会費としては、500円から上は3万円くらいまであります。一律ではなく、いろいろな会費になっています。皆さんに「スマートロック」を発行して、「自由に来て、開けて入って、勝手に使っていていいよ」という運用方法をとっています。

いま、公立大とか高専、高校生も「ここに来たら、いろんな人に会えるから」と学生さんもメンバーシップになってくれています。学生のメンバーシップは無料です。それ以外にも釧路管内に住んでいる方、それからサブスク型をとっていますので釧路に住んでいない「BANYAのことを応援するよ」という人も、使っていないけど月々「応援」という形で会員になってくださっています。いろいろな人のメンバーシップのお金を使って学生さんの支援とか、循環するような形で支援してもらいながらBANNYAを維持しております。

私のITのところでは人材育成と地域DXについて話したいと思います。「どこにつながるの」ということ

るかもしれません。少し聞いてください。

いま私が取り組んでいるのは「地域DX」。これは皆さんも聞いたことあるかもしれませんが、これからの人材確保のためには、デジタル化、IT化は、待たなしと思っています。その中で、いきなり何かを導入すればできるかと言えば、絶対にそうではありません。人のマインド醸成、人材を育成することからやらなければなりません。私はITの会社にいながらも、一番は「それを使う人の教育」だと思っています。今は、釧路製作所さんのDX推進チームと一緒に「キントーン」を主軸にしたシステムの開発と、アドバイスという形でやらせてもらっています。これも946BANYAで撮った写真ですが、会社の外に出て946BANYAの場所を会議室として、少し違った雰囲気で行うことで、新しい発想が出たりするなど、若い人が楽しいと思うやり方をしたいというご要望や、「地域のDXを推進して行くトップランナーになりたい」というお話もありましたので、釧路製作所さんは協賛をしていただきつつこのように場所を活用してもらっています。

もうひとつ、福井県庁さんの事例は「ジョイゾー」の事例になります。令和3年くらいから県庁の中の職員さんのDX人材育成を担当させてもらっています。福井県庁のほか、県下の市町のDX推進担当者へ、ブートキャンプ的に一緒に人材育成のことをやらせてもらっています。

釧路の皆さんはDX推進をするときのアドバイス、やり方など、私に経験がありますのでぜひ使い倒してほしい。946BANYAを使いながら皆さんが楽しいと思えるDXを推進することをやって行きたいと思っています。

共創するネオ公民館として、港町ベース946BANYAの未来としては、いろいろなことをゴチャ混ぜして「いまこの港町に必要なこと」をやって行きたいと思います。

実は、地方移住への関心はとても上がって来ていると言われています。これは内閣府が出した資料ですが、首都圏に住んでいる人たち、特に23区では37%が「地方に住んでみたい」と移住に関心があると言われています。こちらはマイナビキャリアの大学生アンケートです。「地元就職を希望する」という方が50%くらいいるのです。本来は「両親や祖父母がいる近くで生活したい」と思っている学生さんが結構いることが分かりました。あとは「Uターンで自分の生活に慣れている所で働きたい」「実家から通えて経済的だから」という理由もありますけど、結構な割合で「地元で働きたい」という若者がおります。

一方で「地元でない所で働きたい」と言っている人たちにも、「どうしたら地元で働きますか」と限定的に聞くと「働きたいと思える企業が多くあれば地元で

働きたい」と。これ、地域の企業さんでDXが進んでいないと、デジタルネイティブと呼ばれる若い人たちは、なかなか帰ってこないことになっちゃう。でも、やっていけば、もしかしたら若い人たちが戻って来るのかなど。それから定着して行くのかなど私は思っております。

また、「地元で結婚したいと思う相手がいる」という所も赤くするしましたが、こういうことも946BANYAで交流してもらって、小さなコミュニティではなくて幅広いコミュニティでいろんな人と知り合うことでこのような出会いを作って行けたらなと思っています。

釧路という街への愛着を皆さんに持ってもらうこと、この土地で生きて行くという価値について、地味ですがずっと946BANYAの中で話をしております。立場や肩書を変えた地元の人、それから地元ではない人たち、こういうワクワクしたチャレンジ、交流の場、これが必要だと考えています。ですので、自分たちで考えて対話を実践し、お互いの違いを理解して共創して行ける、これによって「より充実した暮らしをして行こうよ」と港町ベース946BANYAから広めて行きたいと思っています。

ということで、メンバーシップの話もありましたが、「学生メンバーは無料」でやっていますので、彼らを支える協賛してくれる地元の企業様やメンバーシップの会員さんを募集しております。ご興味がありましたら、ぜひお声掛けいただければと思います。

本日はありがとうございました。